大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

かがやけ憲法！平和・暮らし守る社会へ

響きわたった「いかそう憲法」「とめよう大軍拡」の声

11・3大阪総がかり集会

秋晴れの11月3日、扇町公園で「かがやけ憲法！平和といのちと人権と11・3大阪総がかり集会」が開催され、3000人が参加しました。集会後は2コースに分かれてパレードし、道行く人にアピールしました。

憲法を生かし、だれもが平和に暮らせる社会に

大阪憲法会議・共同センター幹事長の丹羽徹さん（龍谷大学教授）があいさつし、「政治と宗教」「政治とカネ」をめぐるゆがんだ構図のもと、憲法の理念が骨かされ、平和とくらしを破壊する悪政がすすめられたと指摘し、憲法を生かす政治と社会をめざすとりくみをひろげようと呼びかけました。

ゲストスピーチで登壇した岡野八代さん（同志社大学教授）は、「文化」を豊かにしていくために、だれもが平和に暮らせる社会を実現し、だれもが個性にあふれ、未来への夢を形にできる社会の実現をめざそうと訴えました。平和や暮らしをテーマに岡野さんと参加者がトークセッションし、労働組合代表の吉年は、労働条件の改善とともに職場におけるジェンダー平等の実現が重要な課題だと指摘しました。平和運動にとりくむ青年は貧困や差別など社会矛盾の根源に、新自由主義政策がもたらした矛盾があると述べ、平和的生存権を保障する政治と社会の実現へ主権者として行動を続けると語りました。

つづいて、立憲民主党、日本共産党、社会民主党の各代表が連帯あいさつし、れいわ新選組がメッセージを寄せました。

「プラカードを掲げアピールする集会参加者

総がかり集会参加者に支援学校の新校整備を求める署名の協力を訴え

集会が始まる1時間前に集まって、支援学校の新校整備を求める署名への協力を訴えました。障害児学校の卒業生家族や元教員、「教室不足」のニュースを見たと署名してくれる方もありました。40分程の時間に74筆の署名を集約しました。

ゆきとどいた教育を求める全国署名 駅頭宣伝行動を行いました

11月3日、ゆきとどいた教育を求める大阪5団体（大阪の障害児教育をよくする会、府立高校・市立高校30人学級をすすめる会、大阪私学助成をすすめる会、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議）は京橋駅前で署名宣伝行動を行い、「特別支援学校の学習環境改善へ抜本的な新校整備をすべき」などと訴えました。

大障教ホームページアドレス　http://fc06631220171211.web2.blks.jp/　Eメールアドレス：fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

あいみょんのライブに行ってきた。十一月五日の甲子園での弾き語りライブ。ステージはセカンドベースあたりで、その360度が客席だった。観客がひしめく中、彼女は、ギターひとつでステージに立っていた。梅田のストリートで歌っていた西宮出身の少女が、二十歳で上京して七年。地元への凱旋ライブと言うところだろうか。

私は、スピッツの影響を受けているあいみょんの曲調が好きで、体育の授業でBGMとして使用している。今回のライブでは、最近リリースされた「瞳へ落ちるよレコード」のアルバムを中心とした選曲を期待していたが、そうではなかった。ライブ中盤「Tower of The Sun」をあいみょんは泣きながら歌っていた。その直後のMCで、「学校には、居場所がなかった。みんなは進路について話をしていたが、私にはなんの取柄もなく、話題に入れなかった。」と話した。あいみょんにとって「学校がつらい場所だった」と言う事実に、複雑な思いを抱いた。彼女にとって学校は、どのような存在だったのだろうか。

一方、あいみょんは、自身の能力を開花させた典型例だ。しかし、多くの人はそれを全面的に発揮できる場所に存在できるわけではない。能力とスキルを発揮できる機会すら得られない人も存在する。

人生を生きていく中で、夢や希望を切り捨てることがある。一方で、捨てることで新しい自分に出会える。その時に大切なのは、「捨てることの辛さ」に共感してくれる存在だ。

「自己責任論」がまかり通り、「競争と選別」が強められる中、学校は「捨てる時の心の居場所」になれるのだろうか。（久）

みんなで学ぼう！つながろう！

教育のつどい大阪2022全体会 オンライン視聴 スタート！

台風の影響のため、中止となった「教育のつどい大阪２０２２」全体会がオンラインで視聴できるようになりました。

視聴できるのはこちらです。

①豊能ブロック現地実行委員会の歓迎行事

②基調報告

③記念講演　公教育の危機―子どものための教育を取り戻そう―

鈴木大裕さん（教育研究者・土佐町議会議員

教育のつどい大阪２０２２全体会視聴申し込みフォーム

https://daikyoso.wixsite.com/kyoikunotsudoi/kyoiku2022

第２２回全国障害児学級＆学校 学習交流集会in京都＋オンライン

期日：

２０２３年1月7日(土)
～8日(日)

場所：京都教育大学

開催方法：オンライン併用

参加費　：現地参加・オンライン参加ともに2000円
（1日のみ参加は1000円）
⇒組合員は参加費を補助します

内容の詳細については、各分会に配布している黄色の開催要綱ビラをご覧ください！

集会の参加申し込みは、現地参加・オンライン参加ともにPeatixというシステムで全教に直接ＷＥＢで申し込みしてください。申し込み方法は開催要綱を参照してください。

２０２２年原水爆禁止世界大会 広島

参加者の感想　その４

２０２２年２月、テレビ画面に繰り広げられる光景に目を疑った。そこからの日々は、変わらずに続く昼間の日常生活、帰宅後に見るテレビやインターネット上にある膨大な映像や情報で、感情のコントロールが麻痺してくるような感覚に襲われた。２０２２年４月、新年度の忙しい日々が続いた。そうしてくると、遠くで起こっている戦争に徐々に関心が薄れていく。ただ、日常生活を送っていても、衝撃的な出来事が起こった２月から得体のしれない違和感を覚えたままだった。その正体を探るために今回2度目となる原水爆禁止世界大会に参加させてもらった。

２０２２年８月、広島。久しぶりの対面での世界大会の開催に、会場にいる登壇者と参加者の両方からの熱量を強く感じた。１日目の大会終了後に広島平和記念資料館を見学した。小学生のときは大きな強い痛みを感じ、大学生で見学したときは平和教育の視点で見学し、冷静に展示を見られた。今回入館すると、心臓をつかまれているような、じりじりと迫ってくるような感覚がした。少し年齢を重ねた私は、自分と同世代の働き盛りの方々の被爆体験に目を奪われた。仕事中に被爆し、妻や幼い子どもたち、両親、兄弟を残して、激痛を伴いながら死んでいった方の体験。その無念さが今までよりも、自分事のように感じられて、自然と涙がこぼれた。まだまだやりたかったことがたくさんあっただろうに。人が人らしく生きられずに苦しみ死んでいったことを後世に残す展示。その一つひとつの展示には、生身の人間が生きた証が残っている。以前より少しは人生の重みを理解したなかでの見学は、その生きた証を見ながら自分自身のことも考えていた。

大会２日目の分科会では、兵士の身に着ける「頭の先から足の先まで」の物品を製造、貯蔵、修繕した「旧陸軍被服支廠」を見学した。レンガ造りの建物は、建物の場所ごとに損傷の度合いが異なり、原爆の衝撃波を生々しく現代に伝えている。“戦争を準備する建物”が“戦争を語る建物”として戦争の「加害」と「被害」の両方を現在にまで伝えている事実は重い。多くの人が旧陸軍被服支廠を訪れて、その当時の時代に思いを馳せることが平和を考えることにつながるのではないかと感じた。

大会３日目には、広島宣言が採択され、平和への決意を強くしたたなかで大会は閉幕した。現代において、「オンライン」という言葉を聞く機会が急速に増えた。もちろん、メリットの部分についても感じ、日々新しい発見を得ていることも事実である。それでも今回「リアル」で広島を訪れ、人と風土と触れ合った経験は何事にも代えがたいものに感じた。そのなかで、最初に述べていた“違和感の正体”については、結果として見つけることができなかった。なぜか？答えはシンプルで現在が平和とはいえないからである。平和は与えられるものではなく、人と人が連帯するなかで生み出されるものである。色々な考え方の人がいることは素晴らしいことであるが、同時に全員が人として同じように考えるべきこともある。それが平和ではないだろうか。平和の連帯を前提とした様々な議論、主張は大歓迎であり、世界はより良い方向に向かっていくだろう。明治から終戦までの７７年は、戦争が相次いだ。終戦から今年までの７７年は、雲行きが怪しくなりながら終わろうとしている。次の７７年はどうなっていくのだろうか。「ヒロシマの有る国で」生きる私たちには「しなければならないこと」が多く存在する。それを一つひとつ実行していった先に、“違和感”が消えた平和な世界が待っているはずだ。（摂津支援分会　奥田優一）